

ZSSSK

生活科・総合教育だより

全国小学校生活科・総合的な学習教育研究協議会会報

全国小学校生活科・総合的な学習教育研究協議会

事務局 東京都武蔵野市立境南小学校
東京都武蔵野市境南2丁目27-27
TEL 0422-32-3401

発行人 宮崎 倉太郎

編集人 小高 和子

第30回 全国小学校生活科・ 総合的な学習教育研究協議会 「大阪大会をふり返って」

大会実行委員長 池田 知之
(大阪市立吉野小学校)

大阪大会は、令和3年11月4日～5日の2日間にわたって大阪市内で開催されました。この大会は、第30回全国小学校生活科・総合的な学習教育研究協議会として節目の大会であるばかりではなく、第24回近畿地区小学校生活科・総合的な学習教育研究協議会の大会でもあり、第29回大阪府小学校生活科・総合的な学習教育研究協議会の大会でもありました。昨年度から続くコロナ禍の中で、どのように大会を実施するかについては、感染拡大の状況に合わせて、大阪府小学校生活科・総合的な学習教育研究協議会のホームページで、何度も全国の皆様に情報発信をしながら、進めてまいりました。

10月末には、全国的にも感染状況が落ち着いてきた状況ではありましたが、それまでの第5波の感染拡大の状況を考え、完全オンラインでの開催とさせていただきます。直接授業参観することを楽しみに計画していただいた方には、大変申し訳なく思っています。ただ、会場校の吉野小学校、清明丘南小学校では24学級全てのクラスで研究授業を実施することができ、そのうち4クラスの授業は、リアルタイムでオンライン配信をすることができました。また、他の授業については、アーカイブ配信として12月いっぱい、ビデオ公開をさせていただきました。このような状況にも関わらず、全国から600名を超える参加者があったこと、皆様には心より感謝申し上げます。

さて、大会の様子ですが、1日目は開会行事の後研究主題「好きやねん大阪 ～人・地域から学び未知の時代を生き抜く力を育成する～」について、大阪市より基調提案させていただきました。新型コロナウイルス感染症の流行に代表されるように、何が起るかかわからない予測不能な時代をよりよく生きるためには、「人と協働し、何かを創り出すこと」「批判的思考で社会をとらえ、変化を楽しむこと」「困難に直面した時にも自分を信じ、最後までやり抜くこと」などの力が必要だと考えました。人や地域と深くかかわり、探究的な活動を通してこそ、このような力が育つということです。そして、このような活動を通して、地域をとらえることが「好きや

ねん〇〇」という意識を生み、未知の未来を切り拓く、原動力になると考えました。

基調提案の後には、シンポジウムを行いました。関西福祉科学大学教授 馬野範雄先生の司会のもと、國學院大学教授 田村学先生、文部科学省教科調査官 加藤智先生、鳴門教育大学准教授 泰山裕先生 奈良教育大学特任准教授 小島亜華里先生 などの方々をシンポジストとして「生活・総合の未来」について討論していただきました。これからの生活総合の進んでいく方向について考えることができました。1日目の最後は、文部科学省教科調査官 齋藤博伸先生のご講演です。演題は「新学習指導要領の主旨を踏まえた生活科・総合的な学習の時間の授業づくり」です。具体的な事例も紹介していただき、現場で生かせるポイントをいくつも教えていただきました。

1日目の内容をより深めることをめざし、2日目は、吉野小学校、清明丘南小学校を会場として分科会を実施しました。前述のようにオンラインでの開催でしたが、両会場校のすべてのクラスが研究授業を実施しました。コロナ禍の中、様々な制約のある中で、地域に出かけ、人と出会い、具体的な活動を積み重ねて、探究的な課題解決を進めてきたことがどの授業からも、子どもたちの真摯な態度から伝わってきました。課題別分科会では、誌上報告も含めて23本のレポートが寄せられました。オンラインでの討議会では、元文部科学省 主任視学官 嶋野道弘先生のお声も聞くことができ、大変有意義な交流になりました。この2年間のコロナ禍の中で、各地区が「子どもたちにどんな力をつければいいのか」「そのために具体的にどのようにすればいいのか」「そのことで学校や子ども・教師がどのように変わってきたのか」などについて、深く考えてこられたことが分りました。

最後の指導講評では、各校の研究に深く関わってくださった鳴門教育大学准教授 泰山裕先生、奈良教育大学特任准教授 小島亜華里先生に会場校の研究実践について、授業の具体的な場面をあげてご指導をいただきました。

2日間を通して、オンラインという限られた条件の中ではありませんでしたが、熱心な討議が行われ、学びの多い大会となりました。役員・ご来賓の先生方から、授業実践や大会運営について、「今後の方向性を提案する大会となった」とのお言葉もいただきました。実行委員会として全国の皆様に御礼申し上げます。

第28回東北小学校生活科・総合的な学習 研究協議会「宮城大会」 誌上发表

大会テーマ

「未来社会の創り手として、主体的に考え地域と協働しながら社会的変化を乗り越えることができる子供の育成」

東北小学校生活科・総合的な学習研究協議会

会長 森 直

1. 震災後10年 節目の大会に

平成23年3月、東日本大震災により東北地方の太平洋沿岸部を中心に広範囲の地域が壊滅的な打撃を受けました。しかし「東北は一つ」という強固な思いを胸に、全力で復興に向けて歩み、その年の12月には「夢と希望をはぐくむ生活科・総合的な学習の時間」という大会テーマのもと、東北大会宮城大会を開催することができました。

あれから10年。子供たちは、地域の復興に向け、地域の方々と主体的に関わり協力し合う大切さを学んできました。さらにこれからは、未来社会の創り手として、予測困難な時代を乗り越える力を身に付けることが求められます。実際、新型コロナウイルスによる感染拡大からも、時代の急激な変化はすでに始まっているのです。このことを本大会テーマに据え、「オール宮城」体制で、節目の宮城大会を運営する準備を進めてきました。

2. 紆余曲折を経た大会運営

令和2年度から本大会の運営方法について探ってきました。どこにも正解がない不安の中、全国理事会からの他地区大会の進捗状況や各種情報は大変貴重なものでした。

宮城県でも何度も話し合いを重ね、参集型からオンラインでの開催、誌上发表から中止まで、ありとあらゆる大会運営方法を模索してきました。

最終的にコロナ対策をした上での一部参集型で準備を進めていくという結論を出したのは、会場校の子供たちと先生方の学びに向かう姿を見てもらいたいという思いからでした。新型コロナウイルスの影響で、これまで大切にしてきた人・もの・こととの関わりが困難な状況の中、先生方が工夫をしながら豊かな学びを創出していました。そのために学校として、地域や学校の特長を踏まえてダイナミックに教育活動を展開できるよう、生活科・総合的な学習の時間を要としたカリキュラム・マネジメントを推進していました。

主なコロナ対策は、①提案授業を数台のビデオで撮影すること。②児童が下校した後に大会受付を開始すること。③ビデオを昼食時に視聴した上で、午後の授業分析会に参加することなどでした。

9月6日を最終決定日とし、この日の県感染レベルで参集型か誌上发表かを決断することになっていましたが、8月末から宮城県は緊急事態宣言対象地域に追加され、参集型を諦めざるを得ない感染状況となってしまいました。

10年前と同様、大きな壁にぶち当たった宮城県でしたが、「こんなときだからこそ、何かできることはないか。」と知恵を出し合いました。その結果、一般参集をせず、講師招へいの上で授業づくり研修会という形態で実施することになりました。お願いしていた講師の先生方からご快諾をいただけたことに改めて感謝しております。

3. 学び多き研修会

東北大会を予定していた令和3年12月3日、仙台市立市名坂小学校において「生活科・総合的な学習の時間授業づくり研修会」を実施しました。講師として文部科学省教科調査官 齋藤博伸様、國學院大学教授 田村 学様、宮城教育大学教授 吉村敏之様、宮城教育大学特任教授 猪股亮文様にご助言いただきました。参加者は会場校の教職員と運営スタッフとして招集した仙台市の生活科・総合的な学習部会の常任委員等でした。

感染状況が落ち着いていたことから、3つの公開授業を教室内で参観することができました。授業分析会も3会場に分かれて行いました。講師の先生方からは、「書くことは内面を形にしていくこと」、「魅力ある題材の教材化と単元構成のポイント」「授業づくりは後半が肝であること」などの助言をいただきました。午後は体育館に集まり、シンポジウムに耳を傾けました。齋藤調査官からは本日の授業を総括・価値付けしていただきました。また「探究」については、今後ますます重要性を増していくことを肝に銘じ、今後も広く発信していく決意を新たにいたしました。

なお授業記録・分析会記録・シンポジウム記録等をDVDに収め、大会紀要とともに宮城県内、東北各県の生活科・総合的な学習教育研究協議会のもとに届け、東北大会に替えさせていただきます。

最後になりますが、本大会の運営にご支援いただきましたすべての皆様方に心より御礼申し上げます。今後も子供たちのため、生活科・総合的な学習の時間の実践と研究に励んでまいります。

令和5年度の四国大会に向けて ーリモートと集合研修を合わせた ハイブリッドな研修会の構築を 目指してー

香川県 生活・総合的な学習部会

部会長 佐々木 誠

(香川県 高松市立大野小学校長)

1 はじめに

2020年に世界で新型コロナウイルスの感染が爆発し、その勢いが収まらないまま2年が経過しました。その間、教育界の様子も様変わりし、コロナ禍により、学びのオンライン化・デジタル化が飛躍的に進んできました。本県でも、オンライン学習の必要性が叫ばれ、世論が後押しとなって、令和3年度には県内の全ての市町において、GIGAスクール構想による一人一台タブレット端末が整備されました。このことにより、学校には、ICTの活用による「個別・最適化された学び」をコンセプトとした教育指導の充実が一気に求められることとなりました。

2 令和3年度の取り組み

本県には、昭和38年に設立された香川県内の小学校等に勤務する教職員を会員とする自主的な研究団体である「香川県小学校教育研究会（通称：香小研）」があります。現在、県内の地域ごとに7支部、また、教科・教科外ごとに23の部会が設けられ、香川県小学校教育の振興を目的とした活動を行っています。その一つとして、「香川県生活・総合的な学習部会」があり、毎年、開催地を各支部持ち回りにして研修会を開催してきました。しかし、コロナ禍の影響で、昨年度（令和2年度）は、研修会を中止することとなりました。本年度（令和3年度）も開催は危ぶまれましたが、7月の感染状況を考慮して、感染対策を取った上で、生活・総合的な学習部会の研修会を開催する運びとなりました。（当日は県内から198名の参加があった。）

◇工夫した点としては、

・午前中（半日）開催とした。

※一昨年度までは一日開催の研修会だった。

・密を避けるために支部ごとに研修場所（教室）を割り振った。

・Zoom（オンライン会議システム）を用いた。

※当日、指導者の齋藤博伸先生は東京からWeb上で研修会に参加してもらった。

◇主な成果と課題としては、
（研究主題の視点から）

○全体提案で研究主題「自ら学びを創造する子どもの育成～教師のしかけと確かな見取りを通して～」の具体を共有することができた。

○国立教育政策研究所教科調査官の齋藤先生によるご指導で、学習指導要領と照らし合わせたり、実践例をもとにしたりしながら「学習評価の在り方」を示してくださったので、研究主題の確かな見取りの部分に迫ることができた。

（運営上の工夫から）

○午前中のみで開催とすることで、参加者の負担を軽減することになった。

○感染したときに濃厚接触者の割り出しをスムーズに行うために、支部ごとに教室を割り振った。
（課題として）

●コロナ禍でオンライン会議システム（Zoom）を用いての開催だったので、質疑・応答などの双方向の関わりができなかった。

●午前中開催で提案発表が集中し、ワークショップの時間が取れず、教員同士の学び合いの場を設定することができなかった。

3 令和5年度の四国大会に向けて

香川県は次回の四国大会（令和5年度予定）の当番県となっていて、現在開催に向けて準備を進めています。コロナ禍がいつまで続くのか見通せない状況ですが、今回夏に行った研修会のノウハウを生かし、次のような計画を立てています。

・午後からの半日研修会とする。

・会場校を4校設定し、分散して研究会を行う。

・リモートを活用し、全体会や講評はWeb上で行う。等

4 終わりに

オンラインやデジタルツールの活用と、生活・総合的な学習の時間で展開される探求活動を通して、「個に応じたきめ細かな指導」の継承と、新たな「個を活かす協働的な学び」の充実が図られると考えています。令和5年度の四国大会では、コロナ禍の先にある時代を見通していく教育活動を展開し、オンラインとリアルな活動を生かしながら、たくましく幸せに生きていくための豊かな感性や創造性、人間性を育んでいく研究を進めたいと、香川県の部員一同は、今希望に燃えています。

困難を乗り越え「新たな価値」へ

全国小学校生活科・総合的な学習教育研究協議会

会長 宮崎 倉太郎

(東京都武蔵野市立境南小学校長)

昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症が学校教育に大きな影響を及ぼしています。各学校は、刻々と変わる感染状況に応じて様々な対応を求められ、見通しをもった教育課程の実施が困難な日々が続いています。

一方で、そうした困難を乗り越え、学校の規模や周囲の環境、児童や保護者の実態などを踏まえて教職員が主体的に考え、実現できる最大限の教育活動を展開する様子も見られます。「学校でなければできないことは何か」「児童にどんな力を育てたいのか」という学校教育の原点に立ち戻り、各教育活動における最上位目標を大切に、その達成のために具体的な方法・内容を考えることが大切で、その中心となっているのが、生活・総合の先生方であると確信しています。

そのような中、11月4・5日に、本研究協議会の全国大会が大阪で行われました。昨年度の千葉大会に続き、オンラインを活用し、2日目には、授業会場校(大阪市立吉野小学校、大阪市立晴明丘南小学校)のご授業と課題別分科会の配信もしていただき質の高い学びを実感することができました。また、1日目の全体会では、馬野範雄先生(関西福祉科学大学)田村学先生(國學院大學)、加藤智先生(文部科学省教科調査官)、泰山裕先生(鳴門教育大学)、小島亜華里先生(関西大学)によるシンポジウム、齋藤博伸先生(文部科学省教科調査官)のご講演など、充実した内容を全国の皆様にご覧いただくことができました。さらに、1日目夕刻の全国理事会でもオンラインを通して各ブロックの情報交換など、有意義な時間をもつことができました。

本年11月10・11日の全国大会(東京大会)は、授業会場校4校(新宿・落合第三小、大田・道塚小、世田谷・世田谷小、練馬・開進第三小)の授業も含め、実地とオンライン併用での開催を想定して、千葉・大阪の先生方に切り拓いていただいた新たな研究会の姿を生かすべく準備を進めているところです。「オンラインなら、参加できる」という各地区の先生方も多いかと思えます。今から、ご予約いただければ幸いです。

今後も、児童が生き生きと活動する主体的・探究的な学びを実現するため、私たち教師も、次期東京大会の主題である「新たな価値の創造」に向け、主体的・協働的に学んでまいりましょう。

＜事務局だより＞

全国理事会報告

全国小学校生活科・総合的な学習教育研究協議会

事務局長 八木 慎一

(東京都青梅市立第二小学校長)

例年、全国理事会は年間2回開催します。第1回理事会は例年7月の第1金曜日の午後(東京で行い、年間の活動計画や予算案の検討、全国大会・地区大会の案内、情報交換、記念講演会等)を実施しています。第2回理事会は、全国大会の1日目に情報提供・情報交換を中心に実施します。

今年度は、第1回は東京から、第2回は全国大会(大阪)の会場からオンラインで開催いたしました。その中で分担金について、①各県で生活と総合の研究会が分かれている場合は、県で合わせて1口分を納めればよいこと、②県の研究会と市の研究会が別々に登録し個別に理事を出す場合はそれぞれ1口ずつ(県で計2口)の分担金を納めること、を確認しました。また、文部科学省の後援名義申請の基準が変わり、全国規模の大会のみを後援する原則となったため、ブロック大会等では以前から継続して後援されている大会以外は申請を受理されないことがある旨を報告しました。

令和4年度は、北海道ブロックは北見大会、東北ブロックは秋田大会、関東ブロックは東京大会(全国大会を兼ねる)、近畿大会は京都大会、中国ブロックは広島大会、四国ブロックは香川大会、九州ブロックは熊本大会が予定されています。

令和4年度全国理事会のご案内

■ 令和4年度の第1回全国理事会を、以下のとおり開催いたしますので、ご予約おきいただきますようお願いいたします。理事交代予定の都道府県におかれましては、確実な引継ぎをお願いするとともに、新理事名・所属校・連絡先等の情報を3月中に事務局長までメールでご連絡をいただきますようお願い申し上げます。

(メールアドレス yagi-sh@ome-tky.ed.jp)

日時：令和4年7月1日(金)

全国理事会・記念講演 14:00～16:45

情報交換の会 17:00～19:00

会場：未定(オンライン開催を計画中)

内容(予定):事業報告・決算報告・役員案・事業計画・予算案審議・新会長及び全国大会開催県挨拶・ブロック別情報交換及び全体会・

記念講演(講師:教科調査官)15:30～